

記入例1

一般的な農業者

本書提出先をすべて記入

取組を行う作物を2つまで記入
肥料を使う全面積を計に記入

本計画書の提出先

JA	肥料商	農家グループ
JA〇〇	〇〇肥料店	〇〇農家組合

他に申請の肥料対策
(予定含む)

府事業	市町村事業
	○

注:該当欄すべてに○

作付概要	
作物名	作付面積(ha)
水稻	1.5
だいこん	0.5
その他	0.5
計	2.5

府・市町村事業にも申請の場合 ○

氏名(法人・組織名) 京都 太郎

住所 〇〇市〇〇 〇〇番地

電話番号 090-1234-XXX

氏名・住所・
電話番号

1. 実施する(してきた)取組メニューに「○」を付してください。
2. 「令和4年度又は令和5年度の取組」には、実施する取組メニューが2つ以上必要です。そのうち1つ以上は、新しい取組、従来の取組の強化・拡大(「◎」で記入)を含むようにしてください。

取組メニュー	前年度までの取組	令和4年度又は 令和5年度の取組
ア 土壌診断による施肥設計	○	○
イ 生育診断による施肥設計		
ウ 地域の低投入型の施肥設計の導入		
エ 堆肥の利用	○	◎
オ 汚泥肥料の利用(下水汚泥等)		○
カ 食品残渣など国内資源の利用(エとオ以外)		
キ 有機質肥料(指定混合肥料等を含む)の利用	既に取組んで いるものに○	○・◎が 合計で2つ以上 + 1つは「新規」 または 「拡大・強化」(◎)
ク 緑肥作物の利用		
ケ 肥料施用量の少ない品種の利用		
コ 低成分肥料(単肥配合を含む)の利用		
サ 可変施肥機の利用(ドローンの活用等も含む)		
シ 局所施肥(側条施肥、うね立て同時施肥、 灌注施肥等)の利用		
ス 育苗箱(ポット苗)施肥の利用		
セ 化学肥料の使用量及びコスト節減の観点からの 施肥量・肥料銘柄の見直し(ア～スに係るものを除く。)		
ソ 地域特認技術の利用()		

私は、添付した領収書(請求書)等記載の肥料(肥料費)について以下のとおり
施のため、京都府・市町村・地域農業再生協議会に必要な情報を提供するこ



私は販売農家であり、令和4年秋肥又は令和5年春肥
の農業生産に使用します。

↑四角内にチェックした上で署名してください。

レ印でチェックして
自筆で署名
コピーの場合も
1枚ごとに署名を
お願いします

氏名(自署) 京都太郎

- (注) 当年の肥料費は、秋用肥料については令和4年6月～10月、春用肥料については令和4年11月～令和5年5月に発注したことを証明する書類(注文票等)と、参加農業者が肥料費を支払ったことを証明する書類(領収書等)または支払い義務が生じていることを示す書類(請求書等)を提出すること。
なお、肥料の種類、数量、購入費が記載されているものに限る。
【JA、肥料商申請分については、不要】

記入例2

有機栽培、特別栽培、
京都こだわり栽培、環境直払の方

本書提出先をすべて記入

JA	肥料商	農家グループ
JAOO	〇〇肥料店	〇〇農家組合

他に申請の肥料対策
(予定含む)

府事業	市町村事業
	○

注:該当欄すべてに○

作付概要

作物名	作付面積(ha)
水稻 (特別栽培)	1.5
だいこん	0.5
その他	0.5
計	2.5

府・市町村事業にも申請の場合 ○

氏名(法人・組織名) 京都 太郎

住所 〇〇市〇〇 〇〇番地

電話番号 090-1234-XXX

氏名・住所・
電話番号

1. 実施する(してきた)取組メニューに「○」を付けてください。
2. 「令和4年度又は令和5年度の取組」には、実施する取組メニューが2つ以上必要です。そのうち1つ以上は、新しい取組、従来の取組の強化・拡大(「◎」で記入)を含むようにしてください。

ア 土壌診断による	<p>◇ 全作付面積の半分以上を占める作物(代表的作物)で有機栽培等を取組んでいれば、取組の○・◎は不要</p> <p>◇ 栽培等の内容を()で記載し、その取組が証明できる書類の写しを添付</p> <p>※3品目以上作付で、代表的作物がない場合、代表的作物に準ずる作物群のうち2品目以上で取組んでいればよい。</p> <p>例:水稻、<u>ミズナ(有機)</u>、<u>コマツナ(有機)</u>を同じ面積ずつ栽培 ・・・・ミズナ(有機)、コマツナ(有機)の面積記載(水稻分はその他に)</p> <p>※有機農産物認証書の写し、栽培履歴の写し、日本型環境直接支払交付金交付決定の写し等、()内の取組が証明できる書類を添付してください。</p> <p>作物名欄の例:作物名(有機栽培)、作物名(特別栽培)、 作物名(京都こだわり)、作物名(環境直払)</p>
イ 生育診断による	
ウ 地域の低投入	
エ 堆肥の利用	
オ 汚泥肥料の利用	
カ 食品残渣などの利用	
キ 有機質肥料(堆肥)の利用	
ク 緑肥作物の利用	
ケ 肥料施用量の削減	
コ 低成分肥料(単質)の利用	
サ 可変施肥機の利用	
シ 局所施肥(側条施肥、 灌注施肥等)の利用	
ス 育苗箱(ポット)の利用	
セ 化学肥料の使用量及びコスト節減の観点からの 施肥量・肥料銘柄の見直し(ア～スに係るものを除く。)	
ソ 地域特認技術の利用()	

私は、添付した領収書(請求書)等記載の肥料(肥料費)について以下のとおり、京都府・市町村・地域農業再生協議会に必要な情報を提供することとします。



私は販売農家であり、令和4年秋肥又は令和5年春肥の農業生産に使用します。

↑四角内にチェックした上で署名してください。

レ印でチェックして
自筆で署名
コピーの場合も
1枚ごとに署名を
お願いします

氏名(自署) 京都太郎

(注) 当年の肥料費は、秋用肥料については令和4年6月～10月、春用肥料については令和4年11月～令和5年5月に発注したことを証明する書類(注文票等)と、参加農業者が肥料費を支払ったことを証明する書類(領収書等)または支払い義務が生じていることを示す書類(請求書等)を提出すること。
 なお、肥料の種類、数量、購入費が記載されているものに限る。
 【JA、肥料商申請分については、不要】

記入例3

慣行水稲
(側条施肥田植機・一発肥料)

本書提出先をすべて記入

JA	肥料商	農家グループ
JA〇〇	〇〇肥料店	〇〇農家組合

他に申請の肥料対策
(予定含む)

府事業	市町村事業
	○

注:該当欄すべてに○

府・市町村事業にも申請の場合 ○

氏名(法人・組織名) 京都 太郎

住所 〇〇市〇〇 〇〇番地

電話番号 090-1234-XXX

氏名・住所・
電話番号

作付概要

作物名	作付面積(ha)
水稲	0.5
その他	
計	0.5

1. 実施する(してきた)取組メニューに「○」を付してください。
2. 「令和4年度又は令和5年度の取組」には、実施する取組メニューが2つ以上必要です。そのうち1つ以上は、新しい取組、従来の取組の強化・拡大(「◎」で記入)を含むようにしてください。

取組メニュー	前年度までの取組	令和4年度又は令和5年度の取組
ア 土壌診断による施肥設計		○ ④
イ 生育診断による施肥設計		
ウ 地域の低投入型の施肥設計の導入		
エ 堆肥の利用		
オ 汚泥肥料の利用(下水汚泥等)		
カ 食品残渣など国内資源の利用(エとオ以外)		
キ 有機質肥料(指定混合肥料等を含む)の利用	(○)	○ または ◎ ①
ク 緑肥作物の利用		
ケ 肥料施用量の少ない品種の利用		
コ 低成分肥料(単肥配合を含む)の利用		○ ②
サ 可変施肥機の利用(ドローンの活用等も含む)		
シ 局所施肥(側条施肥、うね立て同時施肥、 灌注施肥等)の利用	○	○
ス 育苗箱(ポット苗)施肥の利用		
セ 化学肥料の使用量及びコスト節減の観点からの 施肥量・肥料銘柄の見直し(ア～スに係るものを除く。)		○ ③
ソ 地		

- 前年度までの取組欄
 - ・側条施肥・・・「シに○」
 - ・使っている肥料が有機入り肥料・・・「キに○」、化成肥料・・・2つ目の○はなし
- 令和4年度又は令和5年度の取組欄
 - (1つ目) 側条施肥・・・「シに○」
 - (2つ目) 下記のいずれか1つ以上
 - ①-1 有機入り肥料を、さらに有機質割合の高い肥料に変えた・・・「キに◎」
 - ①-2 化成肥料から有機入り肥料に変えた……………「キに○」
 - ② チッ素を強化しリン酸、加里を減らした低成分肥料に変えた……………「コに○」
 - ③ 化成肥料だが、施肥量や銘柄を見直した……………「セに○」
 - ④ 同じ化成肥料だが、近隣の土壌診断の情報から施肥を再検討した・・・「アに○」

私は
施の

(注)

業実

ら

発注し
い義